

令和5年度(2023年度)

# 学校評価

笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい  
夢に向かい 郷土を愛する葛小っ子

- I 学校評価計画
- II 学校自己評価
- III 学校関係者評価

※ 参考資料

- ・ 具体的努力事項の指標結果
- ・ 保護者対象

## 水俣市立葛渡小学校

〒867-0173

熊本県水俣市葛渡270番地2

TEL 0966-67-1003

FAX 0966-67-1066

E-mail ms07@athena.ocn.ne.jp



# I 学校評価計画

## 1 学校評価の目的

- 自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
- 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進める。
- 学校評価の結果に応じて、支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図る。

## 2 学校評価のための年間計画

- 4月 学校教育目標にもとづき、具体的実践事項を作成する。  
具体的実践事項をもとに担任が学級経営の具体的方策をたてる。
- 7月 児童及び教員による評価及び自己評価（1学期）を行う。
- 8月 1学期の結果を集計し、考察を行う。改善策を策定し、それを達成するための改善方策をたてる。
- 9月～12月 改善方策に基づき実践する。
- 12月 児童及び教員による評価及び自己評価（2学期）を行う。  
評価結果を集計し、考察をする。それにもとづき改善方策を策定する。
- 1月～3月 改善方策にもとづき実践をする。
  - 2月 児童及び教師による評価及び自己評価（3学期）を行う。  
保護者によるアンケートを実施する  
学校関係者評価を開催し、自己評価の結果について話し合いを行い、次年度の学校経営の具体的実践事項の案を策定する。
- 3月 評価結果の公表・報告（教育委員会への報告）をする。

## II 学校自己評価

### 1 学校教育目標及び学校経営方針

校訓： やさしく かしこく たくましく

学校教育目標

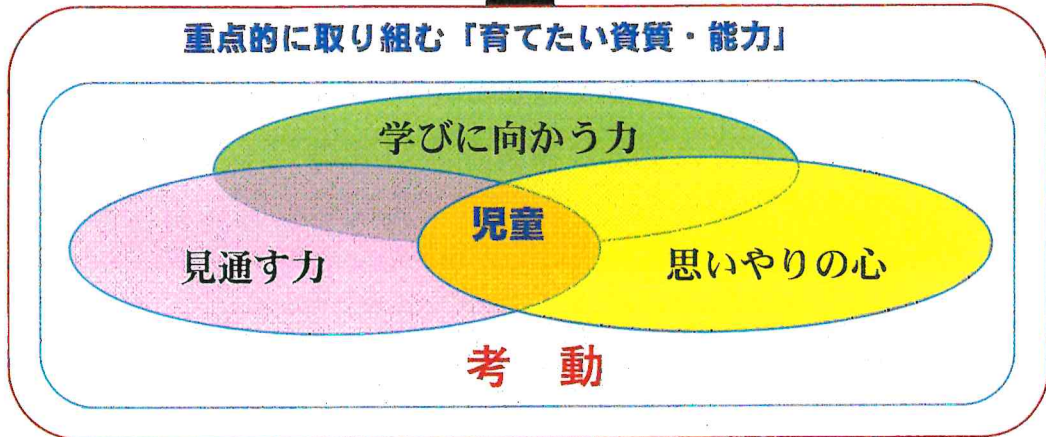
笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい 夢に向かい 郷土を愛する葛小っ子

スローガン

考動＝なりたい自分になるために

こんな学校に	こんな子どもに	こんな教職員に
<p>はずむ心のある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○笑顔があふれ、活気に満ちた学校</li> <li>○互いに学び合い、育ち合う学校</li> <li>○保護者に支えられ、地域とともに協働する安心・安全な学校</li> </ul>	<p>学びの心を持つ子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○気持ちのよいあいさつができ、相手を思いやる心を持つ子ども</li> <li>○郷土を愛し、夢（なりたい自分）に向かって「考動」する子ども</li> <li>○健康・安全に気をつけて、やるべきことに粘り強く取り組む子ども</li> </ul>	<p>育ての心を持つ教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○温かさ（受け入れる姿勢・言葉づかい）</li> <li>○明るさ（笑顔・あいさつ・楽しむ心）</li> <li>○マネジメント力（よさや変化への気付き、見通し、調整する力）</li> <li>○研究心（真摯に学び続ける姿勢）</li> <li>○郷土愛（地域を知り、協働による教育を進める意欲）</li> </ul>

重点的に取り組む「育てたい資質・能力」



### 2 経営の柱と重点努力事項

柱	重点努力事項
スローガン	「考動」＝なりたい自分になるために
豊かな心の育成	考え議論する道徳の授業づくり
	人権尊重の視点に立ったつながりのある学級づくり
	チーム葛渡による生徒指導の充実
確かな学力の育成	管内統一事項に沿った葛渡小版授業づくり
	学習内容の確実な定着
	外国語活動・外国語の授業の充実
	読書活動の充実

柱	重点努力事項
健やかな体の育成	教科体育の充実
	健康教育の推進
	安全・防災教育の充実
	食に関する指導の充実
人権教育の推進	人権課題の解決
	全ての人の人権を守る実践行動
特別支援教育の充実	
地域とともにある学校づくり	地域との連携協働によるよりよい教育の充実
	地域や保護者との連携強化と開かれた教育課程づくり
	保護者との強い三礼関係づくり
不祥事防止・働き方改革の推進	

3 本年度の自己評価

【スローガン】(本文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察(○成果●課題及び改善策)
		児童	教員		
「考動」=なりたい自分になるために	<p>&lt;上段&gt;全ての教育活動中での喜ばせ(全ての児童の想いを大切に)</p> <p>①「夢(なりたい自分)」に向かって考動できた児童の割合95%</p> <p>②児童の「夢(なりたい自分)」を把握し、考動させている教員の割合100%</p> <p>&lt;下段&gt;特別活動を要としたキャリア教育の実施とキャリアパスポートの活用</p> <p>③全教育活動において基礎的・汎用的能力(4能力)を育成し、キャリアパスポートを活用した教員の割合100%</p>	<p>① 96.7%</p>	<p>② 100%</p>	A	<p>○今年度も「夢(なりたい自分)」を年度当初に児童一人一人と担任が話し合い、自分なりの「夢(なりたい自分)」を決め、31名全員階段に掲示した。そのことで、年間を通して児童も教員も意識して活動することができた。</p> <p>○学期末に自分自身を振り返る際にも「夢(なりたい自分)」をもとにキャリアパスポートを効果的に活用することができた。</p> <p>●児童の基礎的・汎用的能力をより効果的に育成するためのキャリア教育の年間計画の作成を進めていく必要がある。</p>
			③ 100%	A	



【豊かな心の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察(○成果●課題及び改善策)
		児童	教員		
考え議論する道徳の授業づくり	<b>&lt;上段&gt;道徳科授業力向上手引書やくまもとの心、つなぐ〜熊本の明日へ〜等の活用による道徳科の授業の充実</b> ①自分を見つめ、いろいろな考えを話し合う中で自分の生き方を考える児童の割合95% ②自己を見つめ、様々な意見から自分の生き方を考える指導をしている教員の割合100% <b>&lt;下段&gt;重点目標【善悪の判断・自立、自由と責任、親切・思いやり、生命の尊さ】の設定による道徳性の育成</b> ③年間計画に沿って授業を実施し、学習シート等を活用し、学習の足跡を残す教員の割合100%	① 100%	② 100%	A	○年度当初から、全学級で「道徳の足跡」コーナーを掲示し、学習した項目についてふり返ったり実生活に生かしたりできているようにした。 ○心のアンケートにおいて「いじめられたことがある」と回答した子どもが1名いたものの、担任による聞き取りや教育相談等で早期発見、解消に向けて取り組んでいる。 ●時折児童同士の日常の会話の中にひやかしたりからかったりする言動が見られたことがあった。相手を思いやる心の醸成を継続していく。
		③ 100%	③ 100%	A	
人権尊重の視座に立ったつながりのある授業づくり	<b>&lt;上段&gt;話し合い活動に基づいた実践活動の実施</b> ④みんなと協力して、仲良く生活できた児童の割合95% <b>&lt;下段&gt;全ての人を大切に作る学級経営</b> 一人一人を大事にした学習環境づくり ⑤子ども同士をつなぐ、一人一人の居場所づくりを行っている教員の割合100% ⑥「認め、褒め、励まし、伸ばす」言語環境、学習環境を整える教員の割合100%	④ 100%	⑤ 100%	A	○みんなと協力して仲良く生活できた児童の割合が、4月当初は約90%であったが、年度末には100%になった。 ○つながりのある学級や学校を指して、「もやいタイム(児童を見つめる会)」の実施により、全職員での共通理解や共通実践を図ることができた。 ●児童のアンケートで年間を通して否定的な回答をした児童もおり、個別に対応しながら継続した取組が必要である。
		⑥ 100%	⑥ 100%	A	
チーム葛渡による生徒指導の充実	<b>○自己有用感を高める積極的な声かけや活動の実施</b> ⑦学校生活は楽しいと感じている児童の割合95% ⑧自分から進んで気持ちのよいあいさつができる児童の割合95% ⑨学校の決まりややるべきことをきちんとできる児童の割合95% ⑩常態的・先行的な生徒指導を意識して、児童の自己有用感を高めめている教員の割合100%	⑦ 96.7%	⑩ 100%	A	○あいさつを進んで行い学校のきまりをきちんと守れている児童がほとんどである。積極的なあいさつやきまりの遵守によって、明るく落ち着いた学校生活をおくり、自分自身を伸ばすことにつながることを指導し続けた。 ●ほとんどの児童が学校生活は楽しいと感じているが、年間を通して、「楽しくない」と感じている児童も数名見られる。チーム葛渡のよさを生かして一人一人の背景や課題を把握したうえで対応していく。
		⑧ 100%			
		⑨ 100%			

【確かな学力の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察(成果●課題及び改善策)
		児童	教員		
管内統一事項に沿った算数小版授業づくり	<p>達成に&gt; 熊本県学力・学習状況調査の県平均定着率を超えた割合75%</p> <p>&lt; 下段&gt;</p> <p>○主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善</p> <p>①先生や友達の意見や考えを最後まで聞くことができる児童の割合95%</p> <p>②話し合いをするときに、自分の意見や考えを持ち、きちんと発言できる児童の割合90%</p> <p>③友達と教え合うことができる児童の割合95%</p> <p>○児童の考えを深めるための授業づくり</p> <p>④話し合いを通じて自分の考えを深めることができた児童の割合90%</p> <p>⑤学び合いを深める発問やまとめ、振り返りの工夫を行っている教員の割合100%</p> <p>○ICTの効果的な活用</p> <p>⑥日常的にタブレットを活用する教員の割合100%</p> <p>○校内研修の充実</p> <p>⑦研究主題に沿って積極的に授業改善を行う教員の割合100%</p>	91.0%	<p>児童</p> <p>① 100%</p> <p>② 96.7%</p> <p>③ 100%</p> <p>④ 96.7%</p>	A	<p>○県学力・学習状況調査(3~6年対象)の結果、県平均正答率との比較においては、3年:国語[+4.7]算数[+3.1]、4年:国語[+27.7]算数[+19.8]、5年:国語[-6.1]算数[+7.7]、6年:国語[+3.1]算数[+5.8]であった。僅かに及ばなかった5年国語においても標準スコアの経年比較では向上していた。また、市学力・学習状況調査(1・2年対象)の結果、全国平均正答率1年:国語[+16.5]算数[+15.5]、2年:国語[+8.2]算数[+2.6]であった。課題克服のプリントや苦手領域・観点の復習等の取組の成果とみている。全職員で小問分析を行い取りにぼしの領域・観点に向けて、学習リーダーの育成を進めたい。○複式学級、少人数での話し合いの活性化に向けて、学習リーダーの育成を進めたい。○自分で話し合いの活動を進めるようになってきた。</p> <p>○話し合いを通じて自分の考えを深めることができた児童]については、4月の実態調査より12.7ポイントの上昇が見られ、「学び合いを深める発問やまとめ、振り返りの工夫を行っている教員」の割合も100%であった。</p> <p>●学力の定着には個人差・学年差が見られる。個に応じた指導を徹底し、課題を課題のままにしない取組を継続していく。</p> <p>●互いに発表し合い聴き合う関係づくりの徹底、学習問題の基礎・基本的なケアレスミスが多い児童に対しての基礎学力の定着については、取組を強化していく必要がある。</p>
		<p>学習内容の確実な定着と充実</p>	<p>&lt; 上段&gt; 家庭学習習慣の定着と質の向上</p> <p>⑧発達段階に応じた家庭学習に取り組み、質の向上を図る児童の割合95%</p> <p>&lt; 下段&gt;</p> <p>○指導と評価の一体化</p> <p>⑨「家庭学習の手引き」や「POINT5」を生かし、内容の方法の指導助言、評価を行っている教員の割合100%</p> <p>○基礎的・基本的事項の定着を目指した個別指導の充実</p> <p>⑩課題を課題のままにしない指導の充実に取り組んでいる教員の割合100%</p>	<p>児童</p> <p>⑧ 93.3%</p> <p>⑨ 100%</p> <p>⑩ 100%</p>	B
外国語活動・外国語の授業の充実	<p>○外国語活動・外国語の授業に意欲的に取り組み指導方法の工夫</p> <p>⑪外国語活動・外国語の授業が「楽しい」「分かる」と思う児童の割合90%</p>	<p>児童</p> <p>100%</p>	A	<p>○デジタル教科書を活用したり、外国語支援員と連携したりして、児童が意欲的に英語の学習に取り組めるように進めることができた。</p>	
読書活動の充実	<p>○読書する習慣を身につける指導と本に親しむ児童の育成</p> <p>⑫一月に本を2冊以上読む児童の割合100%</p> <p>⑬身近なところに常に本をもつ児童の割合100%</p> <p>⑭学校図書館の活用等、読書推進に取り組んでいる教員の割合100%</p>	<p>児童</p> <p>⑫ 96.7%</p> <p>⑬ 100%</p> <p>⑭ 90%</p>	B	<p>○読書活動推進員の本に親しめる環境づくりや、担任による教科内容と関連づけた学校図書館の活用等により、90%以上の児童が読書意欲の向上につながった。</p> <p>●個人差が大きく、読む本の内容を見ると、高学年の児童においても絵本や図鑑、学習漫画を読んでいる。全ての児童が読書に親しませると同時に、質を高めるような働きかけが必要である。</p>	

【健やかな体の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察(○成果●課題及び改善策)
		児童	教員		
教科体育の充実	<p>達成する楽しさを実感し、体力の向上を図る体育指導の充実</p> <p>①外で元気に遊んだり、運動を頑張っている児童の割合95% ②活動の目標を明確にして教科体育やっている教員の割合100%</p>	① 93.3%	② 100%	B	<p>○教科体育の充実においては、活動の目標を明確にした授業が行われている。</p> <p>○昨年度に製作したジャンピングボードにより、授業中はもちろんのこと、休み時間等も積極的に取り組み、縄跳びの技術が著しく向上した。</p> <p>●体力向上に向けて、年間を通して授業開始後のランニングを行ってきた。今後、運動の特性と体力面における課題をつなげた活動を意識して組み合わせるなどの工夫や、外遊びをしたかららない児童の対策が今後の課題である。</p>
健康教育の推進	<p>＜上段＞基本的生活習慣の育成 ③さわやかやさん(週1回火曜日)やすまいる賞(月1回)を目指す児童の割合90%</p> <p>＜下段＞課題解消に向けた保健指導の充実 ④健康診断の課題の解消に向けて指導、啓発を行っている教員の割合100%</p>	③ 86.7%	④ 100%	B A	<p>○「すまいる運動」等の取組により、3点固定「就寝・学習開始・起床時刻」の推進を行ってきた。取組の中で「認める」「ほめる」場面をつくり、児童の意欲を高められたことは良かった。</p> <p>○歯の治療については、保健だよりなどの保護者への啓発により受診率は100%であった。</p> <p>●児童の健康に関する意識向上を目指して、養護教諭を中心に取組を進めているが、取組が形骸化しないように、全職員で目的を共有して進める必要がある。</p>
安全・防災教育の充実	<p>＜上段＞安全教育の充実と徹底 ⑤安全に注意し、登校・生活ができている児童の割合95%</p> <p>＜下段＞学校内外の事故防止、防犯体制の整備 ⑥危険予測を含めた安全指導を行っている教員の割合100%</p>	⑤ 96.7%	⑥ 100%	A A	<p>○登下校に関する毎日の安全指導及び一斉下校時における全体指導をとおして、安全に関する注意喚起を行った。登下校や地区での事故や大きなケガの報告はなかった。</p> <p>○約4年ぶりに小中学校及び保護者と連携した土砂災害避難訓練を実施できた。今回の課題をもとに、より実践的な訓練となるようにしていきたい。</p>
食に関する指導の充実	<p>＜上段＞給食の時間の指導の徹底 ⑦給食において、自分の体調を考え、適量を時間内に食べられる児童の割合95%</p> <p>＜下段＞教科等の指導と食に関する指導との関連を図る系統的な指導の実施 ⑧望ましい食習慣を育む等、食に関する指導をしている教員の割合100%</p>	⑦ 96.7%	⑧ 100%	A A	<p>○毎週火曜日の「さわやかチェック」アンケートから、朝食はほとんどの児童が摂取できている。家庭との連携が重要なところでもあるため、信頼関係を築き、連携を取り合っていくことが大切であるとともに、朝食の内容にもふれ、充実を図りたい。</p> <p>○給食において、時間内に適量を食べられるような指導はできている。食物アレルギーの児童が1名いる。全職員で共通理解し、適切に対応できるようにした。</p> <p>●食に関する指導は家庭での食に関する意識が大きく影響するため、家庭との連携を更に進めていきたい。</p>



【3本柱以外の取組】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察(○成果●課題及び改善策)
		教員①	100%		
<p>＜人権教育の推進＞ 人権課題の解決及び全ての人の人権を守る実践行動 ○<b>第三次とりまとめや環境学習、水俣病学習の実施と人権教育に関する研修の実践及び啓発等の推進</b> ①「実践行動につなぐ」授業へのアプローチを活用し、年間計画に沿った授業を実施した教員の割合100% ②部落差別等、様々な人権問題についての基本的認識を深め、実践的な指導を図る教員の割合100%</p>	<p>教員①</p> <p>100%</p> <p>教員②</p> <p>100%</p>	A	<p>○校内研修において、県から発行されている人権教育推進のための資料を活用して「同和問題」をはじめ、「水俣病をめぐる人権」、「ハンセン病回復者等の人権」、「教育実践の交流」を中心に計画的に研修を進めた。そのことで、教職員の資質向上につながり、指導方法の工夫改善につながった。 ●教員の指導のもと、「なりたいたい自分」を児童相互にも意識させながら考動させていくと、自他を尊重させる意識を持たせていきたい。</p>		
<p>＜特別支援教育の充実＞ ○<b>子どもの可能性を最大限に伸ばすための授業づくりや指導の工夫改善</b> ③ユニバーサルデザインに基づいたわかりやすい授業づくりと個や特性に応じた指導の工夫を行う教員の割合100%</p>	<p>教員③</p> <p>100%</p>	A	<p>○児童理解のために行う「もやタイム」は、気になる児童への組織対応において、有効であった。 ●児童が目につく範囲においてユニバーサルデザインに基づいた気を散らさない掲示や視覚的支援の工夫をしていきたい。</p>		
<p>＜地域とともにある学校づくり＞ 地域との連携協働によるよりよい教育の充実 ○豊かな体験活動の場の設定と地域学校協働活動の活用 ④地域等との連携(人材等の活用)を図った教員の割合100% 地域や保護者との連携強化と開かれた教育課程 ○連携を深めるための積極的な情報公開 ⑤「学校だより」学級通信「学校ホームページ」等を定期的に発行・更新できた教員の割合100% 保護者との強い信頼関係づくり ○<b>傾聴や協働の姿勢</b> ⑥保護者からの相談があった際、傾聴と共働を意識しながら話し合いができた教員の割合100%</p>	<p>教員④</p> <p>85.7%</p> <p>教員⑤</p> <p>100%</p> <p>教員⑥</p> <p>100%</p>	B	<p>○新型コロナウイルス感染症に関する制限がなくなり、地域とともにある学校づくりを進めてきた。約4年ぶりに地域合同の運動会も実施できた。学校に対して協力的な地域であるので、今後も積極的に地域に開かれた学校づくりに努めたい。 ○昨年度より学級だよりを週1回から月1回に変更したが、保護者アンケートでは80%以上の保護者が肯定的に回答された。 ○「学校ホームページ」の公開充実を図った。今年度は70回以上更新され(2月16日時点)となり、閲覧回数も増加した。 ○保護者との強い信頼関係づくりにおいては、傾聴の姿勢、対話重視で、少人数ならではの利点を生かしてきた。今後、一方通行ではなく、双方向型の対話を図っていく。</p>		
<p>＜不祥事防止・働き方改革の推進＞ ○<b>不祥事防止に向けた啓発と申し合わせ事項の遵守</b> ⑦ボトムアップ型研修の実施や「不祥事防止だより」の発行により、自身の言動を振り返れる教員の割合100% ○業務の割り振りの適正化 ⑧超過勤務時間、月4.5時間以内で収める教員の割合100%</p>	<p>教員⑦</p> <p>100%</p> <p>教員⑧</p> <p>87.5%</p>	B	<p>○計画的ボトムアップ型研修の実施に併せて、適時管理職が行う研修講話や職員向け「不祥事防止だより」の発行により、学校から不祥事を出さないという意識は高まったものと考ええる。 ○職員連絡会を週1回、学級だよりを月1回発行、さらには日課を工夫したこと、放課後の時間の使い方を各々が有効に活用することができた。超過勤務4.5時間を超えたのは2名であった。</p>		

### Ⅲ 学校関係者評価

<学校関係者評価委員>

役職名等	お名前	役職名等	お名前
後援会長	桑原 一知	地域学校協働活動本部員	岩本 邦子
P T A会長	吉海 幸裕	西方寺認定こども園長	萩嶺 麗子
地域学校協働活動推進員	本井 三千年		

- (1) 学校関係者評価委員による評価  
 ア 具体的実践事項の評価結果は適切か。

【学校の自己評価について】 (人)

評価項目	評価基準及び妥当性		
	高すぎる	妥当である	低すぎる
A：スローガン		5	
B：豊かな心の育成		5	
C：確かな学力の育成		5	
D：健やかな体の育成		5	
E：3本柱以外の取組		5	

- イ 具体的実践事項からの改善策は適切か。

【今後の課題の改善策について】 (人)

評価項目	評価基準及び妥当性		
	効果的である	おおむね妥当である	期待できない
A：スローガン	2	3	
B：豊かな心の育成	2	3	
C：確かな学力の育成		5	
D：健やかな体の育成	1	4	
E：3本柱以外の取組	1	4	

(2) 学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）による意見等

具体的実践事項	学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）による意見等
スローガン	<p>□「なりたい自分」については、一人一人と担任が話し合うということが大切だと思う。</p> <p>□先生方が一人一人を大事にして関わっていただいているので大変ありがたい。</p>
豊かな心の育成	<p>□取組を継続していく中で、自己肯定感を高めていただき、楽しくないから楽しいへ変えていくことが大事である。</p> <p>□もう少し保護者との連携が必要と思う。保護者との距離感が少し遠く感じる。</p> <p>□児童に積極的にあいさつを指導されるのであれば、先生方にも積極的なあいさつを意識してほしい。</p> <p>□人権については、日々の生活の中で常に心がけて指導（生活）していただきたい。</p>
確かな学力の育成	<p>□家庭学習の定着、読書力はこれから中学校、高校と進んでいく中で、とても大きな力になっていくと思う。</p> <p>□学習発表会ではどの学年も大変すばらしかった。</p>
健やかな心身の育成	<p>□健やかな心の育成から児童との会話（コミュニケーション）は多いに悪いはないので、密な会話を取ってほしい。</p>
3本柱以外の取組	<p>□超過とまではいかななくても、休日に先生方の車を止まっているのを見ることもある。</p> <p>□働き方改革の推進において、残業はなるべくしない方向だと思います。超過勤務を超えてお仕事される先生においては、対応を考えた方がいいと思います。</p> <p>□学校と保護者の連携は、難しいこととは思いますが、連携がうまくいっているかどうか、子どもたちの先生方への信頼に大きく関わってくると思います。</p>

## Ⅳ 次年度への指向

### (1) 学校関係者評価を受けて

#### 【学校の自己評価について】

A：スローガン、B：豊かな心の育成、C：確かな学力の育成、D：健やかな心身の育成、  
E：3本柱以外の取組において、全員が「妥当である」とのご意見であった。

#### 【今後の課題の改善策について】

・A、Bにおいて2名、D、Eにおいて1名が「効果的である」とのご意見であり、その他のすべての項目において、「おおむね妥当である」とのご意見をいただいた。「期待できない」のご意見は、0名であった。

#### A：スローガンについて

○スローガンについては児童も教員も意識付けできているので、少人数であることの利点を活用して、児童一人一人と対話を通して「夢（なりたい自分）」を明確に持たせるように継続していく。

○キャリア教育の年間計画を改善しながら、キャリアパスポートの効果的な活用を図っていく。

#### B：豊かな心の育成について

○挨拶については以前よりもできてきているという意見をいただいたものの、家庭や地域の積極的なあいさつに課題があると思われる。教員自身が率先垂範してあいさつをしていきたい。

○全教育活動の中で一人一人の活躍の場を設定し、自己有用感を高めていきたい。

○教員がアンテナを高くして、児童のいじめや悩みに対して早期発見、早期解決につとめ、これまで以上に全職員で共通理解のつえ、チーム葛渡として進めていきたい。

#### C：確かな学力の育成

○本年度も、全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の小問分析や課題にあった問題への取組、芦北・水俣学力向上対策協議会提言書に基づく取組により、全学年において全国平均、県平均をほぼ上回った。特に、漢字大会・計算大会の月1回実施やeライブラリーの活用等により最低限習得すべき事項を粘り強く指導したことは大きな成果となった。次年度は日々の授業改善を更に進めながら確かな学力の育成を目指したい。

○学力の向上には、読書に親しむことは重要である。児童が興味を持って読書を行う習慣づくりとともに、月目標や強化月間の設定等から読書量の向上に努めていきたい。併せて、図書室のより一層の環境整備にあたりたい。

#### D：健やかな心身の育成

○体力向上に向けて、ジャンピングボードの設置や運動場の整備により外遊びをする児童が増えたものの、外になかなか出ない児童もあり、二極化が進んでいる。委員会活動による児童の主体的な活動を促し、外遊びを増やしていきたい。

○スポーツテスト結果の課題をふまえた体力向上の取組やさらなる外遊びの励行の工夫を行いたい。

○3点固定運動については、家庭との連携が重要であるので、家庭との連携に向けたコミュニケーションを図りながら、より一層の協力体制を築いていきたい。

#### E：3本柱以外の取組

○日課の工夫や定時退勤日の設定など、超過勤務解消に向けた働き方改革は進めているものの、大きな課題の一つである。仕事量の偏りがいかなど校務分掌の見直しをするなどアイデアを出し合いながら働き方改革への意識を高め、全職員で取り組む必要がある。

○コロナ禍の制限がなくなり、運動会の地域合同開催や学習発表会の地域への呼びかけなど地域との交流を積極的に実施した。今後も新しい形での連携を進めていきたい。



## ※参考資料

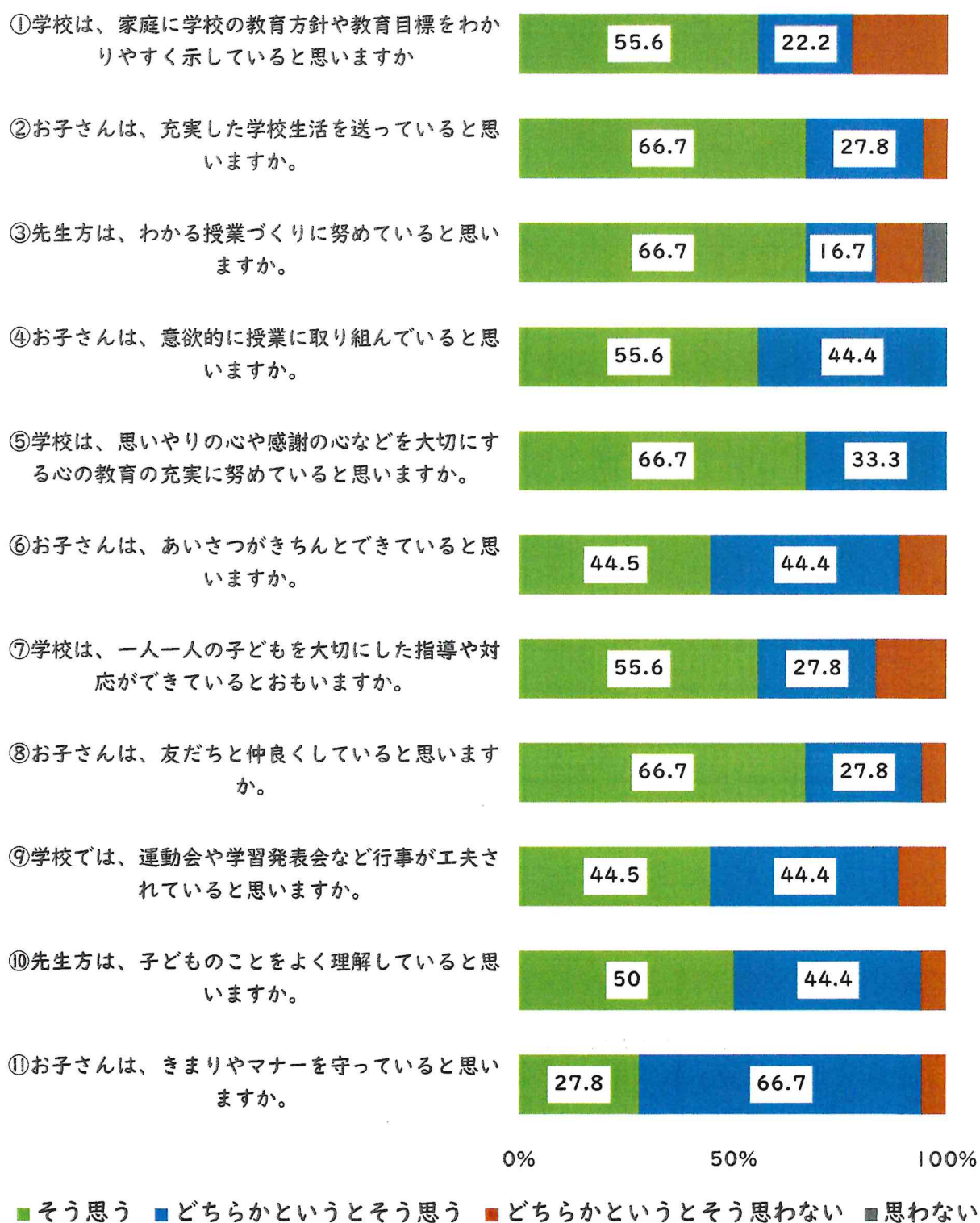
- 具体的努力事項の指標結果
- 保護者対象







## R5 学校評価アンケート【保護者用】の結果①





## R5 学校評価アンケート【保護者用】の結果②

